

小樽市医師会看護高等専修学校

学校案内



個性はイロイロ.....

成長が楽しみです。



看護の使命は
「人間としての尊厳を大切にし、健康で幸福でありたい」
という人々の願いに応え、健康的な生活を
支援していくことです。

本校では、その実現に向けて、
看護学生の個性と主体性を尊重し、
心豊かな人間性を育む教育に力を注ぎ、又、
生命に対する畏敬の念と、人間の尊厳を基にした
質の高い看護を実践する看護者育成の
教育をすすめております。

教育理念

個性と主体性を尊重し、豊かな人間性を育み、生命への畏敬の念と人間の尊重を基盤とし、社会の変化に対応できる幅広い能力を備えて、看護の実践に必要な科学的思考、倫理的判断力を養い、保健・医療・福祉チームの一員として、社会に貢献できる人材の育成をめざす。

教育目的

理念に基づき、学校のみならず地域医療全体と連携し、看護に必要な知識、技術を習得し、豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材を育成する。

教育目標

1. 生命に対する畏敬の念と人間愛を基盤とし、誠実で公平な倫理的判断に基づいた行動ができる。
2. 看護を必要とする人を、身体的、精神的、社会的に統合された生活者という視点で、幅広く捉えることができる。
3. 看護に必要な基礎的知識・技術を習得し、准看護師としての責務を認識し、日常生活援助と診療の補助を、安全・安楽の配慮がなされ実践できる。
4. 保健・医療・福祉について理解し、チームの一員として他職種との連携・協働・調整を図り、准看護師の役割を遂行することができる。
5. 社会の変化に対応し、生涯にわたり、継続的・主体的に学び続ける力を養うことができる。
6. 地域医療の現状を理解し、看護の役割を考えることができる。

本校は、昭和30年に地域保健医療に貢献できる人材を育成することを目的とした小樽市医師会によって設立されました。

小樽市医師会看護高等専修学校は、准看護師として必要な知識や技術を習得し、地域保健医療に貢献しうる人材の育成を目的として、昭和30年に小樽市医師会によって設立されました。

本校は小樽市の中心部にあり、小樽運河・小樽港・天狗山等自然豊かな四季折々の姿に触れることができます。いろいろなバックグラウンドをもった学生たちが、このような恵まれた自然環境のなかで、同じ目標に向かい、互いに励まし合いながら切磋琢磨しております。

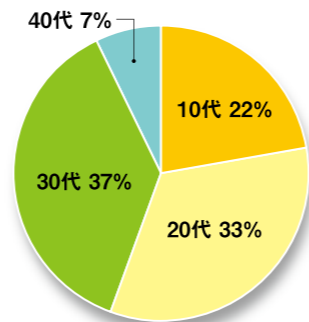
実習施設は、市内をはじめ余市の病院施設、介護老人保健施設、保育所です。そこでは理論だけではなく、自ら考えながら科学的根拠に基づいた看護の実践方法を学んでいます。

平成23年度 実習施設一覧

- 小樽協会病院 市立小樽病院 済生会小樽病院
- 余市協会病院 石橋病院 東小樽病院
- 老人保健施設 望・はまなす 手宮保育所 他

平成23年度の受験者状況は右記の通りです。

本校の受験者の特徴は、年齢構成、最終学歴等幅広い層の方々が受験していることが挙げられます。



どのくらい資格 知事 試験に合格しているでしょうか。

近年、准看護師の資格を得るための知事試験が難しくなり、合格率が低下していると言われています。資格 知事 試験の全国平均合格率は約90%です。本校での平均合格率は約98%で、平成23年度は100%でした。本校では、全員合格をめざし、模擬試験等、細やかな指導を行っています。

資格(知事)試験合格率

年 度	平成19年(51期生)	平成20年(52期生)	平成21年(53期生)	平成22年(54期生)	平成23年(55期生)
一 次	100%	97%	94%	100%	100%

本校の卒業生の進路は

本校の進学率は平成23年度で約80%です。近年は看護師をめざす学生が増え、北海道立衛生学院、小樽看護専門学校、琴似看護専門学校、中村記念病院附属看護専門学校、駒沢看護保育福祉専門学校等に進学しています。又、就職率は40%です。看護専門学校に進学しながら准看護師として就職する学生も含まれます。このように本校では学生ひとりひとりの希望に沿えられるよう、進路指導にも尽力しています。

進学率

年 度	平成19年(51期生)	平成20年(52期生)	平成21年(53期生)	平成22年(54期生)	平成23年(55期生)
進学率	74%	88%	72%	64%	77%

「知識」と「技術」を習得するための大切な環境を整えています。



只今、演習中!

臨床と同じ緊張感で
学びます。

[科目の紹介]

科 目		
基礎科目	国語	
	哲学	
	英語	
	物理	
専門基礎科目	人体のしくみとはたらき	
	疾病のなりたち	
	感染と予防	
	臨床検査	
	薬物と看護	
	食生活と栄養	
	患者の心理	
	看護と倫理	
	保健医療福祉のしくみ	
	看護と法律	
専門科目	看護概論	
	基礎看護技術	
	臨床看護概論	
	成人看護	成人看護総論
		呼吸器疾患患者の看護
		循環器疾患患者の看護
	成人看護	消化器疾患患者の看護
		血液疾患患者の看護
		内分泌・代謝疾患患者の看護
	成人看護	脳・神経疾患患者の看護
		運動器疾患患者の看護
		リハビリテーションと理学療法・作業療法

科 目		
専門科目	成人看護	腎泌尿器疾患患者の看護
		女性生殖器疾患患者の看護
		皮膚疾患患者の看護
		膠原病疾患患者の看護
		感染症・寄生虫疾患患者の看護
		放射線診療と看護
成人看護	眼疾患患者の看護	
	耳鼻咽喉疾患患者の看護	
	歯・口腔疾患患者の看護	
専門科目	老年看護	
	母性看護	
	小児看護	
	精神保健	
	精神看護	
臨地実習	基礎看護	
	成人看護	
	老年看護	
	母性看護	
	小児看護	
	精神看護	

[授業時間]

	1年	2年
月	13:00~17:50	臨地実習(8:30~16:30)
火	13:00~17:50	臨地実習(8:30~16:30)
水	13:00~17:50	授業(13:00~17:50)
木	13:00~17:50	臨地実習(8:30~16:30)
金	13:00~17:50	臨地実習(8:30~16:30)



キャンパスライフ

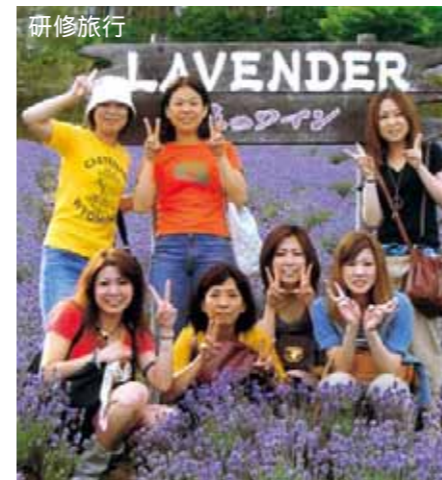
この学校でみつきました。
大切な瞬間。



入学式



戴帽式



研修旅行



研修旅行

主な学校行事

4月	入学式
5月	臨地実習開始[2年生]
7月	1年生研修旅行
9月	2年生研修旅行
11月	戴帽式 標本館見学研修
12月	臨地実習終了
3月	卒業式



卒業式



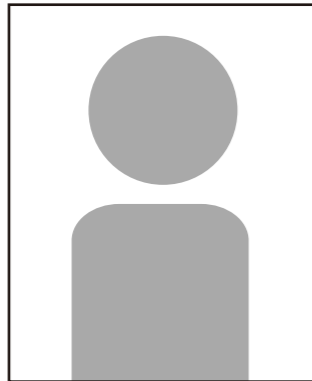
卒業を祝う会



卒業を祝う会

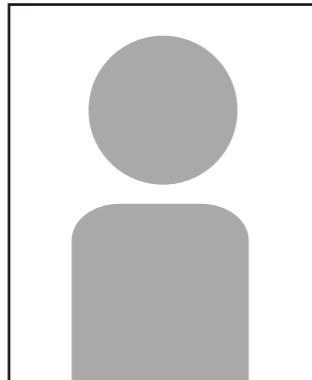


卒業を祝う会



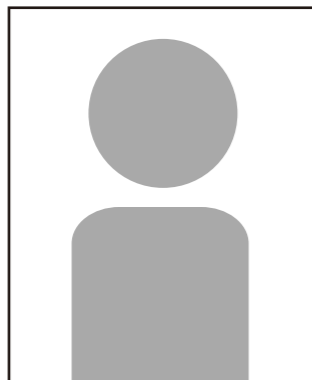
「実習が楽しみです」

札幌市在住の私にとって、市外の学校に通うことに不安がありました。でも同じように通学する人が意外と多いことが分かりました。予習・復習・テストに追われる日々ですが、通学時間もクラスメイトと一緒に有効活用しています。お陰で時間管理能力も高まったような気がします。これから予定される臨地実習にやる気も湧いてきます。



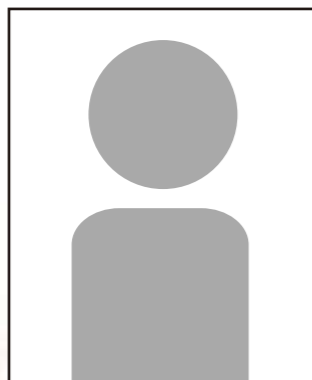
「前に一步踏み出す勇気を」

私は販売員として働き、看護のことは全く無知のままで入学しました。2人の子供の育児と家事、勉強と続けていけるか不安でしたが、同じようなバックグラウンドの方も多く互いに励まし合い、幅広い年齢のクラスメイトと過ごすことで、色々な発見があり、「前に一步踏み出す勇気」を得られたと思います。



「学びの楽しさ」

朝、何故目が覚めるかと言うと、学校に行きたくなるから、、、と感じる位、楽しい学校です。僕は工業高校を卒業し、鉄鋼関係の企業で社会人を経験した後、全く未知の看護の世界に飛び込んで来ました。最初は聞き慣れない言葉ばかりで、勉強は大変ですが、知事試験合格を目指して先生方や友達と一緒に乗り越えて行こう！

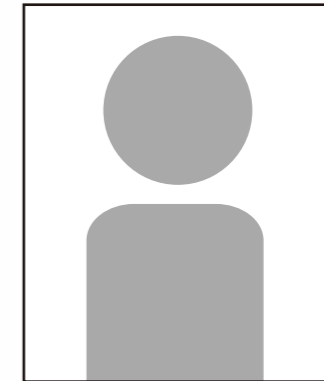


「学び続けています」

私は、医師会看護高等専修学校に在籍時、看護師として生きた知識と人の生命を預かる職業の大変さ、難しさを学びました。卒業後は、日中は准看護師として、夜は看護師を目指す学生として毎日を送っています。これまで学んできたことは現在の学びの中でも活かしていけることばかりです。本気で看護師を目指す人にとって、本当の看護を学べる学校です。

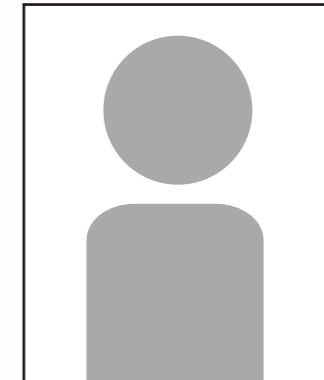
「夢をあきらめず」

新たなことを始めるには遅いだろうと周囲に言われながらも、看護師への夢をあきらめきれず、勤めていた会社を退職し、27歳の春、僕の看護学生の生活がスタートしました。2年間は苦勞の連続でしたが、共に学ぶ仲間を支えられ、日々成長することが出来たと思います。この学校での学びを忘れずに、これからも頑張っていきたいです。



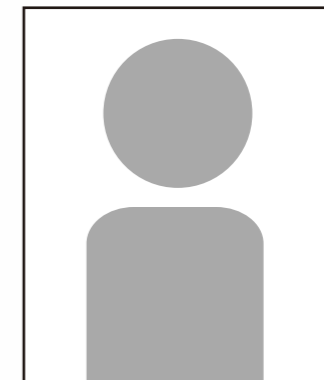
「看護の道は続きます」

民間企業の会社員、という全く異なる職種から発起しての看護学校でした。入学して暫くは右も左もわからず、不安ばかりで悩むこともありましたが、教務の先生方、同じ道を志す仲間のお陰で日々変化し成長していった2年間でした。この学校での学び、先生方や仲間から頂いた優しさを胸に、これからも頑張っていこうと思います。



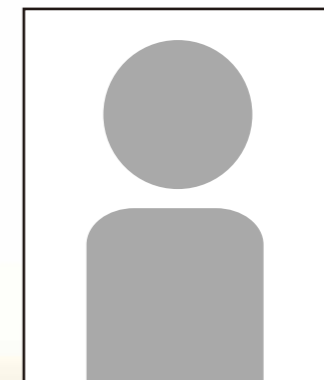
「やる気があれば開けます」

40代の私が看護への第一歩を踏み出したのは、小樽市医師会看護高等専修学校で学ぶことが出来たからです。試験や実習への不安がありましたが、先生方の素晴らしい指導力と励ましに支えられて乗り切ることができました。目標を持ち努力と協力を続けることで、必ず看護の道は開けます。やる気のある方はぜひチャレンジして下さい。

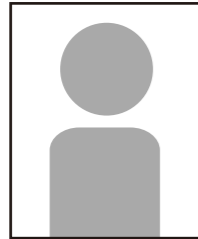


「看護の奥深さ」

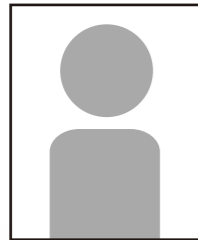
在学中は看護知識や技術を学ぶだけでなく、自分の行動に責任を持つことの大切さや努力が自分の成長へと繋がる喜びを強く感じました。卒業後臨床に出た今、知識が少なすぎることや、教科書を見ても答えが出ない多くの問題に悩まされます。しかし、この学校で学んだ自信と誇りを持って、向上心を忘れずに今後も頑張っていきます。



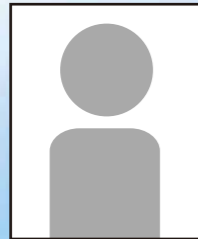
医療・看護を学ぶと同時に
人と接することの大切さを学びました。



私の学校生活は、様々な年代の人達と同じ目標を持ち仲間となつて、互いに切磋琢磨しあいながらテスト勉強や病院実習を乗り越えた2年間で、多くの学びがありました。特に病院実習では、多くの患者さんとの出逢いを通して看護技術を学ばせていただくだけでなく、**この患者さんにとって今一番大切な事は何なのか、**とい



勉強ということから離れて数年経っており、福祉の勉強をしていた私にとって、医療とは未知の世界でした。また、入学しても**20代後半の私が勉強についていくことができるのか正直不安**でした。若い方が多いのだと構えていたのですが、実際は様々な年齢の方がクラスメイトとして一つの目標に向かって協力し助け合い、ライバルともなりながら交流を深めることができ、一人の人間として成長できたと感じています。「自分はこんなに頑張れ



20年振りの学生生活が始まり、新たな夢の一步を手に入れることができました。しかし喜びも束の間、専門科目に演習と学ぶ内容の多さに驚き、更にテストに追われる日々が続き、くじけそうになった事もありました。学校は決して甘くはありませんが、共に学ぶ仲間と励まし合い、刺激し合いながらのり切ることができました。

う事を真剣に考え、1人の人と真正面から向き合う大切さも知りました。また漠然としていた看護師像も、実際の臨床の場を目にして定める事もできました。看護という分野を学ぶ事自体が初めての経験で入学当時の不安は大きかったですが、ひとつひとつを熱心に、時に厳しく指導して下さる先生のおかげで、この学校で基礎をしっかりと教えこんでいただけた事を誇りに思います。

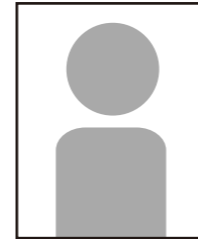
るんだ!」と、実習や進学受験、知事試験を通して感じる事ができ、これが一番の成長だと考えています。自分の強さや努力をすることの大切さをこの学校で気付くことができました。

授業の中では、個性豊かな先生からとても深い医療・看護を学ぶことができ、時には厳しくも愛情のある指導をしてくれます。見学授業もあり、とてもよい経験をつむことができたと思っています。

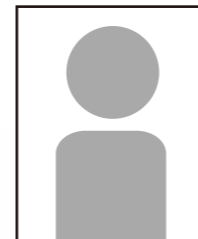
入学当初は何から始めてよいかもわからず、手探りで勉強をしていきました。段々とコツを掴んで自分に一番良い勉強方法が必ず見つかります。私は、この学校に入学できて、学ぶことができて本当によかったと思っています。

厳しい中にも愛情一杯の先生たちと仲間との出会いは、2年間を過ごす上でかけがえのないものでした。

若い仲間と肩を並べる事は体力・知力共に大変ですが、目標を持つ事でクリアできるはずです。年齢を理由にあきらめず、強い気持ちで挑戦してみてください。きっと2年後には「頑張った良かった」と思えること間違いなしですよ。



幼い頃からの憧れで看護師になろうと決意し、この学校に入学しました。授業は興味のある事ばかりで面白く、又、臨床での話に憧れでは済まされない現実を知り、身の引き締まる思いをしました。仲間と励まし合いながらテストの波をこえ進級する頃には臨地実習に入ります。**自分には何も出来ない**と落ち込んでいる時に、**患者さんの「あなたが声をかけてくれるだけでいいんです」という言葉にそれが看護だっ**



私はこの2年間の学校生活で、准看護師としての第一歩、又自分自身が成長出来たととても貴重な2年間であったと感じています。

1年生の時、毎日専門分野の授業を聞き、分野が終わる毎にテストがあるので必死に勉強していた事を思い出します。授業の中には実技実習があり、先生の指導の下、何度も何度も患者さんの安全・安楽を考えた技術を練習しました。

2年生の時、いよいよ実習が始まり毎

たと気付かされました。教科書に答えを探していた自分をとても恥ずかしく感じました。

又、学校では倫理観について時間をかけて学びます。それは看護が人と接する仕事であり、人の命を扱う仕事であるからだと思います。ですから学校生活においても厳しく指導を受ける事もありますが、准看護師になる厳しさを教えて頂いたのだと感謝しています。

決して楽な2年間ではありませんでしたが仲間や先生方に支えられながら多くの事を学び、成長できる学校だと思っています。

日不安な日々でした。けれども、先生方、仲間に支えられ、実習の後半では不安よりも楽しさに変わった気がしました。

自分の看護を展開するうえで毎日悩んだ事がありました。そこを乗り越った時の達成感が自分のやる気にもつながりました。ここまでこれたのも、熱心に教えて下さった先生方、一緒に頑張ってきた仲間がいたからだと思っています。

2年間という短い学校生活でしたが、この学校で学んだ全ての事を生かし、頑張っていきたいです。

今迄の人生で、一番勉強しました。
最初はきつかったけど、人間について、医療について、
看護について分かってきた時、大きな喜びを感じました……

ジュンカン(准看護師)って?

看護職を目指す方にお答えします。

Q 看護師と准看護師はどう違うんですか?

A ひとつには、資格の違いがあります。看護師は国家資格で、厚生労働大臣から免許が交付されます。准看護師は都道府県知事から准看護師の免許が交付されます。ふたつめには定義の違いがあり、准看護師は「医師、または看護師の指示を受けて」患者さんの療養上のお世話や診療の補助を行います。実際には看護師と准看護師では業務内容に違いはなく、殆ど同じ仕事をしていると言われていますが、病院によっては区別をしている所もあります。

Q 准看護師から看護師になれますか?

A 准看護師から看護師になるためには、2年課程の学校に通い、国家試験の受験資格を得る必要があります。このコースには全日制(2年間)、定時制(3年間)があります。本校からも2年課程のある専門学校に毎年60~80%の学生が進学しております。卒業生の中には、新たな知識や技術の必要性を感じ、数年のブランクがあっても進学する方もおります。最近は通信教育も始まり、生活スタイルにあった選択が可能です。また、准看護師からケアマネージャー(介護支援専門員)の資格を取る等、活躍の場も広がっています。

Q 准看護師が廃止されるって本当?

A 准看護師はあらゆる医療機関で必要とされております。また、これまでお話ししたように年齢や学歴の制限がなく、働きながら学ぶ事もできます。現在は看護大学も増え、専門的で高度な技術や知識をもつ看護師が増えているとは言え、医療の現場ではまだまだ看護師の不足が続いています。そのような状況にある一方で、以前から准看護師の廃止という問題が起こっています。その理由として、看護師の免許を一つにしよう、看護師の社会的地位を高めよう、といったことなどがあります。時代の流れを受けるとこの様な見解ももつとも言えるでしょう。また、日本の看護体制は今後も看護師、准看護師、看護補助者の三つの職種がそれぞれの病院施設の機能に応じて配置されるべきだという考えもあります。准看護師の廃止問題は法律制度に関連する難しい問題ですが、本校では、看護に携わる方達がさらにステップアップできる様、応援しています。

Q 准看護師はどんなところで働いているの?

A 准看護師の就職先は、病院、診療所、訪問看護、老人保健施設、社会福祉施設、居宅介護支援事業所等です。本校ではすでに病院、施設で看護助手として働きながら通学している学生や、入学決定直後から看護助手を希望する学生もおり、随時求人を受け付けております。また、准看護師の免許取得後は、医師会をはじめ幅広いネットワークを利用し職場を紹介しています。

Q 准看護師の資格試験は難しい?

A 本校で学ぶ大きな目標は、知事試験に合格し准看護師として患者さんのお世話ができるようにすることです。そのためには知識や経験が必要です。実際に、病院や施設で実習も行います。全国の知事試験受験者の平均合格率は約90%です。本校では22年度100%、23年度100%と、高い数値を維持しています。知事試験は2年間の学習範囲から150問出題され、マークシート方式で行われます。合格を目指し模擬試験を積み重ねる等準備をしますが、日常の勉学内容を確実に習得しながら計画的に取り組むことが大切です。

Q 年齢制限はあるんですか?

A 年齢制限はありません。受験資格は中学卒業以上の学歴から与えられています。本校では10代から40代の方、学歴も中学卒から大学卒、新卒者や社会人、異なる職種で働いていた方、子育てしながらの方、仕事と両立しながらの通学等、様々な方が学んでいます。

Q 准看護師学校の入試は?

A 受験資格は中学卒業以上です。本校での試験科目は、学科試験(国語・数学・理科・社会)と、学科試験合格者のみが進む面接試験があります。学科試験の内容は、高校入試と同じ程度です。平成23年度の募集人数は40名でした。ここ数年の受験倍率は3~5倍です。

准看護師の免許取得は、看護の仕事に就きたい方にとって最短の道と言えます。

本校ではさまざまな年齢や異なった環境の学生達が、目標に向かい机を並べながら励まし合い、2年間学んでいます。何か疑問をお持ちの方、お気軽にお問い合わせください。

TEL・FAX (0134)25-0017 看護学校教務室
E-mail otaru-kango@office.hokkaido.med.or.jp

小樽市医師会は地域全体で看護学生さんを応援いたします

小樽市内医療機関と連携することにより、看護助手として働きながら、直接患者さまと向き合い、学ぶ事ができます。

本校生徒の医療機関就業率は、平成23年4月時点で1年生60%、2年生で33%です。小樽市内の医療機関には看護助手、また現2年生は卒業後准看護師としての求人も随時お願いしております。

毎年、入学試験合格発表と同時に小樽市内医療機関からの求人も案内しております。勉強が始まると仕事との両立は大変と思うかもしれませんが。しかし仕事の中で、患者さまから学ぶことも、励まされることもたくさんあるでしょう。また、先輩の看護師さんから直接体験談を聞くことも、困った時に助言をいただくこともできるでしょう。学校の中だけでなく、みなさんの生活する地域で学ぶことができます。ぜひ入学前から市内医療機関に就業していただくことを推奨いたします。

現在、医療は患者さまをとりまくチームの中で提供され、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、検査技師、栄養士、ケースワーカー、ケアマネージャー等、様々な職種がその専門性を発揮しながら連携しております。本校の生徒さんも看護助手というチームの一員となり、直接患者さまと向き合い、学びを活かしながら成長して下さることを願っております。

本校では、1年生は午後の授業、2年生は1年間のほとんどを臨地実習のため職場を離れなければならないというカリキュラムにもかかわらず、小樽市内の医療機関には求人や通学しやすい条件等、勉強に対してもご理解とご協力をいただいております。小樽市医師会の“看護師さんを地域で育てる”という熱意に応えられるよう、一緒に学んでいきましょう。

ご挨拶



“病める人”は、あなたの看護の力を必要としています。

小樽市医師会看護高等専修学校
学校長 津田 哲哉

人は病めるとき、身も心も弱くなります。

人が困難に陥った時、特に病気になった人に手を差し延べようとする心が医療の原点だと私は考えています。看護は、病める人に寄り添う仕事であり、その働きは崇高なものです。

その「やりがい」は大きく、同時に「責任」も重大です。その両方を果たすためには、「人間性」が求められ、「知識」と「技術」を習得しなければなりません。看護学校はそれらを正しい方向へと導き、専門職業人として大きな力に育てる教育の場です。

本校は、昭和30年に小樽市医師会准看護婦養成所として創立し、平成18年には50周年を迎えました。これまでに約3,500名が学び、卒業生は小樽市内、後志管内のみならず、全道各地の医療現場で活躍し、地域医療に大きく貢献しています。

本校は、全国准看護師模擬試験では常に上位を占め、第1位の成績も数多く収めています。そして、毎年の准看護師知事試験において、ほぼ100%の合格率を誇っております。

本校の在校生は10代～40代まで幅広い年齢構成ですが、皆が同じ目標に向かって、お互いを認め合い、交流を深めながら勉学に励んでいます。

今、残念なことに医療界は医師不足、看護師不足が進んでおり、特に地方郡部の住民の方々は十分な医療を受けられない状況です。

本校は、“病める人”のための力となることができる看護者の育成をめざします。看護の道に意欲のある皆様との出会いを、心よりお待ちしております。





小樽市医師会看護高等専修学校

小樽市富岡1丁目5番15号

TEL・FAX (0134)25-0017 看護学校教務室

E-mail otaru-kango@o ce.hokkaido.med.or.jp

小樽市医師会 URL

<http://www.hokkaido.med.or.jp/otaru/>

